

# おてら

# 報 恩 講

## 十一月十六日(水)

午前十一時より

正午 おとき・法話

おときも椅子席になってます

常例十六日講  
毎月十六日午後一時より  
お経練習・法話会  
写経会  
毎月第二・四金曜日  
午後一時より



浄光寺蔵 親鸞聖人越後御化導木像

浄土真宗のご開祖親鸞聖人の御祥月命日に  
ご宗祖のご苦勞を偲び感謝し、そのみ教え  
を味あわせていただき、明日の私の生きる  
糧とさせていただきます。

ぜひ一度、ご参加下さい。

## 仏 縁

住職 蒲原 靈 英

俳句の師が百寿を前に亡くなられました。亡くなられる十日前の句会にもいつものように出席され、まさに大往生の最期でした。

その方は、私が以前住んでいた彦根のお寺の熱心なご門徒で、「わたしは亡き前住職に人間にさせてもろうた」と常々言っておられました。

その方は若い頃に右手を無くされました。まだ戦後間もない頃で、今のように福祉などない時代。片手の無くなった自分がどうやって生き、どうやって家族を養っていきけるのか。「何で自分が」と、酒に溺れて現実から逃げ自暴自棄に。自分でもこのままではアカンと思ってお

っても、なかなか…。そんな時、前住職に「寺にお茶でも飲みに来んか」と声をかけられ、それから色々な法話を聞くようになりました。

法話を聞かせて頂くうちに、苦しんでおるのは自分ばかりではない、皆自分の思い通りにならないで苦しんでいることに気付かされま

す。いくら苦しんでもいくら願っても手が生えてくるわけではない、まずは片手が無くなったという現実を受け入れることができるように

なります。そして、片手が無くても、命があれば自分でできることは山ほどあるではないか、自分にしかできないこともあるのではないかと、

苦しみから解放され、前を向いて歩むようになりました。生涯、前住職を師と仰ぎ、聴聞を重ね、まさに仏道を歩まれたご一生でした。

片手を無くすというご縁があればこそ、師に遇えた。仏法に遇えた。仏縁を得て、初めて人間らしい生活を送らせて頂くことができた。こ

れが、「わたしは前住職に人間にさせてもろうた」という言葉の真意です。では、「人間らしい生活」とは何か。何事もあるがままに受け止め、

わが身を省みて感謝することです。これらのことは、他の動物にはできません。これが、南無阿弥陀仏のお念仏と共に歩む人生です。簡単

なようですが、まずあるがままに受け止めることすら、非常に難しく大変なことだと思いませんか。だからこそ、親鸞聖人は、その時だけ

滝に打たれたり座禅を組んだりするのはなく、お念仏を申して一時一時、一日一日を大切に生きてゆく道を勧められました。

俳句の師は、俳句だけでなく、仏道を歩む者の姿を教えとして遺して下さいました。

手を無くし 仏縁を得し 露の人

合掌

# 永代経法要



九月十九日から二十五日迄、秋彼岸会が執り行われ、全国各地よりたくさんの方々がお参りに来られました。二十四日午後七時から、平成二十八年度お扱いの浄光寺総永代経法要が、進納者の方々をお招きして厳かに営まれました。

読経の後、ご住職より永代経の謂われやお彼岸の由来などについてご法話があり、お供物と記念品の下付がありました。永代経は、相互扶助の精神で、各々愛した人の永代供養の為にできる時にできる範囲のことをさせて頂くことによつて、仏様のみ教えが永代に渡つて伝わるようにとの願いから成り立って来ました。いづれ仏となつて彼岸(浄土)へ往く身として、この此岸(娑婆)で仏様の為にできることを精一杯させていたくださましよう。

## 秋の日帰りバスツアー



十月六日、台風一過の晴天に恵まれ、副会長の椎谷周策さんからバスをお借りして護持会恒例の日帰りバスツアーを行いました。村上で屏風まつりが行われていた町屋をめぐり、新多久でおいしいお料理を頂きました。鮮魚センターやぶどう狩りでのお土産を手にと、楽しい秋の一日を終えました。

## ご門主様初のご著書

「日々の一瞬一瞬を、まずはありのままに受け止めて、そしてひたむきに精いっぱい生きていく」  
親鸞聖人の血脈を継ぐ第二十五代門主が、身勝手な人間であふれる現代社会を心豊かに生き抜く要件を浄土真宗の教えに照らし明快に説く。日々不安と葛藤する私達の心の支えとなり、生き方が見えてくる一冊です。

第二十五代門主が語る  
難しい時代を生きるヒント  
ありのままに、  
ひたむきに  
不安な今を生きる  
西本願寺 門主  
大谷光淳  
ご門主さま  
初のご著書  
ありのままに、  
ひたむきに  
生きていく  
大谷光淳  
著  
160ページ 定価：本体600円(税別)  
P4P4印刷所 06文芸社・定価：160ページ 定価：本体600円(税別)

### 月忌納め法要 (おみがき)

十二月十六日  
午後一時より

仏様ご先祖様に一年の感謝を  
申し上げましよう

### 除夜会法要

十二月三十一日  
午後十一時半より

除夜の鐘を  
ついてみませんか  
豚汁の振る舞いがあります